

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりの人権を尊重し、生徒全員の就労を通じた社会自立をめざした教育を推進することにより、「社会に貢献できる人材の育成」と「心豊かに自己の生活を充実していくことができる人間の育成」をめざす。

地域や関係機関との連携を深める中で、高等支援学校として、時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、高い就労率と高い定着率をめざす。

- 1 個々の生徒の持てる力を最大限に発揮できる教育実践を行い、一人ひとりのニーズに対応した充実した「進路学習と進路指導」を行うことにより、生徒全員の就労と社会自立をめざす。
- 2 高等支援学校の教員としての高い専門性をもって、継続的系統的にキャリア教育を行い、生徒の社会的自立へのチャレンジを支援する。
- 3 地域や関係機関との連携を深め、地域にある社会的資源をより有効に活用する中で、生徒の豊かな社会体験をはぐくみ、主体的に社会に貢献できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

- 1 「集団指導」と「個別指導」を有効かつ適切に行い、就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実を図る。
  - (1) 1 年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。
  - (2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。
  - (3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。
  - (4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る。
- 2 各教科、各職業学科の取り組みにおいて授業力向上をさらに推し進め、高等支援学校教員としての資質の向上をめざす。
  - (1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。
  - (2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。
  - (3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。
- 3 地域社会とより広く連携し、社会参加により生徒の自己肯定感を高める中で一層の自立心を育成する。
  - (1) 学習の充実 <近隣の高校との交流及び共同学習 摂津支援との連携>
  - (2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実 <自治会、公民館・淀川河川事務所、企業、地域の中学校等>
  - (3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者からの回収率が思わしくないの、ご意見がいただけるような働きかけが必要である。全 30 質問で肯定率平均は 94.5% でおおむね良好と言える。昨年度の結果と比較すると 30 問中 27 問で肯定率が向上している。肯定率低下は※「性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている」(-14%) ※「学校が保護者に出す文書、連絡等がわかりやすい」(-9%) ※「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」(-14%) の 3 問である。今後改善に努めていきたいが、「交流」に関しては本校の特色上、学校間交流よりも地域企業や施設との交流・連携が主となるので交流の位置づけ理解を得るとともに、設問の見直しが必要となるであろう。また否定率が 20% を超えるものが二つあるが※「学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる」(40%) ※「この学校の授業参観や学校行事に参加している」(23%) 進路の情報提供については「進路のしおり」やHPブログ等でこまめに知らせているものの、深く理解していただくため、よりわかりやすい情報提供を心がけていく必要がある。また学校への保護者参加についてはご家庭の事情によるものであり、学校の努力だけでは改善は難しい。設問に工夫が必要であろう。</p> <p>生徒アンケートでは 20 問中 14 問で肯定率が前年より向上している。否定率が高い設問として三つ挙げられる。※「担任の先生に困っていることや悩みを相談できる」(42%) ※「担任以外に保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」(49%) でこの二つは今年度力を入れ始めた更には生徒の満足度を高めていく必要があるが、悩みの質が相談しにくいものであると捉えることもできる。※「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」(42%) はHR 活動や授業の中でより多くそのような機会を設ける工夫が必要である。</p> <p>教職員は昨年比、向上したものの低下したものが入り混じっているが、類横ばいで大きな格差は生じておらず、先生方が客観的に捉えていると見て取ることができる。否定率の高いものとしてふたつ挙げられるが、※「自立活動指導で生徒が興味を持って主体的に取り組む工夫をしている」(39%) は、教員個々がより専門性、授業力を高めていき学校全体の指導力向上につなげていく必要がある。もう一つは※「近隣の学校などと校種間連の機会を設け、教育活動全般に活かしている」(41%) であるが先にも述べたように、交流、地域資源活用、連携に関して、学校が取り組むべきものを明確にし、設問を変える必要がある。肯定率が高いものとして※「個別の指導計画・教育支援計画について保護者のニーズを</p>	<p>【第 1 回 7 月 7 日 (金)】 協議事項 ① 本校の学校経営計画について 重点項目三点について ・「教育活動の充実」なぜビジネスマナーが大切で必要なのか、何のための取り組みなのかを生徒にしっかりと理解させ、ご家庭に向けても情報発信していくべき。 ・「教員の資質向上」教員の企業研修は一度経験しておくことは重要。その経験の中での気づきを指導に活かしていければ良い。 ・「地域との連携」とりかいた品の品評会参加による地域交流は貴重。地域との交流はもっと注力しても良い。</p> <p>② 平成 28 年度使用教科書選定について ・幅広い範囲から選定したことを説明後確認していただく。</p> <p>③ 授業参観アンケート報告 ・保護者全体の 1/3 からのアンケート回答があり、おおむね好意的な評価、ご意見を頂いた。生徒授業アンケートについても年に 2 回実施することを説明。</p> <p>④ 喫茶サービス (アビリンピック練習) 見学 ・喫茶サービス室に移動後、サービス体験。しっかりと活動できている。接客対応も丁寧でできていた。近隣の方も利用できる環境整備が進めば良いと思う。</p> <p>【第 2 回 10 月 20 日 (金)】 協議事項 ① 本校の学校経営計画進捗状況について ・個別の教育支援計画を充実させ 3 年間で就労に必要な知識を身に付けさせる学校の力が求められる。アビリンピック出場の取り組みはとても良い。 ・学校祭で伝統野菜の販売を強化すれば近隣から人が集まりやすくなるのではないかと、地域に発信ししっかりと連携を進めてもらいたい。</p> <p>② 授業参観アンケートについて ・4 月は参観者が多かったが、7 月は少数であった。 ・さまざまなご意見があると思うが真摯に受け止め改善につなげてほしい。</p> <p>③ 学校教育自己診断案について ・質問項目の見直し変更について説明 ・項目は網羅できていると思う。概ねこれで良い。</p> <p>④ 進路の取り組みについて ・企業開拓は大変であると思うが、大変努力されていると思う。就労後の定着はどうか？ ・生活が変わり、なじみず離職する者が数名出ている。 ・1 年生からよく指導されている。企業との連携が良く構築できている。 ・キャリア教育の充実が重要になってくる。積み上げていく指導をお願いします。</p> <p>【第 3 回学校協議会 2 月 9 日 予定】 ① 学校教育自己診断分析結果について ・診断項目が多すぎるのではないかと、もう少し絞り込んだ方が的確な分析になるのでは。 ・保護者の提出率向上を図るためにアンケート結果を保護者へフィードバックする仕組みを整えるべき。 ・進路情報も年間を通じて丁寧に説明していく必要がある。 ・生徒との教員の関係について肯定率が低いのが気になるが、現状の相談室やスクールカウンセラー活用のシステムをさらに充実させていくことが必要。</p>

## 府立とりかい高等支援学校

踏まえ作成している」(100%)が挙げられるが、これは今年度指導計画・支援計画ともに精選し、より実態に応じた様式に改善したことが大きく寄与していると見ることができる。

- ・授業の肯定率も低い。わかりやすい授業の構築と教員の共通認識が必要だが、今後組織的な取り組みを進めていく必要がある。
- ・自立活動の役割が重くなってくる。こちらも組織的な取り組みを進めてください。
- ② 平成 29 年度「学校経営計画」評価について
  - ・計画や表か項目が多いのではないか。もう少し絞り込み集中的に取り組めば良いと感じるが。本来の業務がおざなりにならないか懸念する。
  - ・交流・連携は地域や周辺企業を主として良いと思う。地域にとって避難場所になるので、行事などの機会に校内を見ていただくことを推奨している。
  - ・河川事務所との交流授業は理解を深めてもらうためにも継続していただきたい。
  - ・教員の資質向上について、企業実習等で向上を図る取り組みは大変良い。
  - ・研究授業週間改善点が明確になるように授業振り返りシートを活用し意見交換を深めてほしい。
- ③ 平成 30 年度「学校経営計画」について
  - ・校長より本年度未達成の計画の継続、達成目標の更なる充実についての要点を説明。
- ④ 進路状況について
  - ・3 期生進路状況について進路指導主事より報告。就労希望者の就労率は 100%。
  - ・就労定着のために就労後の追指導の充実が重要になってくる。
- ⑤ 学校運営協議会について
  - ・学校長より次年度からの変更について説明。

## 府立とりかい高等支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	進捗状況
1、就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実	<p>(1) 1年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。</p> <p>(2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。</p> <p>(3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。</p> <p>(4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る</p>	<p>(1) ア、遅刻指導、服装指導、頭髪指導、安全指導等、就労に向けて規則正しい生活習慣を身に付けるため充実した生徒指導等を日常的・継続的に行う。</p> <p>(2) ア、個別指導を主として、適宜指導を行っていく。</p> <p>イ、生徒自らが相談しやすい雰囲気づくりに努める。</p> <p>(3) ア、外部人材の活用を積極的に進める。外部機関と連携のもと、「ケース会議」を適宜開き、事案解決と生徒育成、また家庭支援も図る。</p> <p>(4) ア、生徒への進路学習の充実</p> <p>イ、生徒、保護者への進路情報の十分な発信</p>	<p>(1) ア・年間遅刻回数、前年度(H28)からの半減をめざす。 ・生徒指導部だけでなく進路指導部とも連携し「面接時」を基準とした身だしなみ指導を徹底する。 ・学校生活全般を通して、丁寧な言葉遣いや敬語の使い方を習得する。 ・歯磨き指導の徹底や虫歯治療を促進し、生徒に健康面での自己管理能力を身に付ける。 ・摂津支援との連携による防災訓練の実施(2回以上) ・迅速な報連相のための情報共有方法の構築として首席会議、管理職連絡会の充実</p> <p>(2) ア、課題の多い「生徒への個別指導」の中で、社会性を身につける内容の充実。</p> <p>イ、生徒との定期的な懇談を実施し生徒が相談しやすい環境に努め、「学校教育自己診断」中の質問への肯定的評価を、70%以上とする。</p> <p>(3) ア・スクールカウンセラーを招聘(10回)。(福祉医療人材活用制度の利用) ・地域支援部を中心とした校内支援体制の充実を図り、個別な支援が必要な生徒対応の体制づくり。</p> <p>(4) ア 企業、先輩OBを講師とした進路講演会の実施(5回以上) イ 進路情報の発信 ・進路日より(3回/年) ・進路の手引き(新1年入学説明会時、2、3年は4月に発行) ・進路懇談の充実</p>	<p>ア○遅刻常習者には指導回数増。結果、遅刻数は横ばいであるが、長期欠席数、常習者数は減少。 ○教員へ指導マニュアルを配布。統一した指導を行うことで1・2年身だしなみ乱れ減少。 ○言葉遣い指導継続中。教員の指導に一貫性が出てきた。 ◎歯磨き者率向上が全クラスに見られた。生徒の意識変革が進んだ。 ○防災訓練7月、12月に実施。摂津とも連携できている。 ◎週2回の首席会、週1回の管理職連絡会を実施。情報交換を綿密にしたことで多くの生徒事案への早期対応に結びついた。 ア○個々の生徒の実態に合わせ適宜指導を進めている。生徒事案が減少した。(H28→14、H29→7) イ△懇談で丁寧な聞き取りを心がけニーズ把握に努めた。肯定率は65%であった。 ア○計画通りスクールカウンセラーを招聘。希望生徒へのカウンセリング実施。生徒に好評であった ◎昼休み放課後を中心に支援部教員による相談窓口を開設。気軽に相談に来る生徒増加(窓口利用のべ50名) ア○企業を中心に計画通り5回実施。内容の定着や工夫がみられた。 イ△進路だよりは発行できていないがHPブログにて取組報告実施 ○進路の手引きについては計画通りに発行、説明も実施。 ○進路懇談も回数を増やして実施してきたが保護者からはより多様な情報提供の要望あり。</p>
2、高等支援学校教員としての資質向上	<p>(1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。</p> <p>(2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。</p> <p>(3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。</p>	<p>(1) ア、「シラバス」のバージョンアップ イ、教育課程の約半分を占める「職業」に関する学科や科目について、充実した教育実践を行うために教材教具の整備。 ウ、整理整頓や校内美化を進め整備された環境で授業を実施する。</p> <p>(2) ア、研究授業実施 イ、新転任、経験年数の少ない教員等の企業職場体験実習実施 ウ、高等支援学校教員としてのビジネスマナー、プレゼンテーションスキル、法令や福祉制度に関する基礎知識等の習得 エ、研修体系の構築に向けて検討及び研修の充実</p> <p>(3) ア、「とりかい版」キャリアプランニングマトリックスの作成により、本校独自の3年間の系統的なキャリア教育の充実をめざす。 イ、とりかいの職業教育を中心とした教育課程の課題の検討と学科のさらなる充実に向けた検討を行う。 ウ、泊を伴うものと校外学習を中心に行事の見直しを行う。</p>	<p>(1) ア、学習指導要領に基づいた教科の目標、内容を見直し、教育活動全体が連動した充実した内容の「シラバス」とする。 イ、職業学科の教材教具の整備 ウ、自校だけでなく共用教室の教材教具の整備、整理整頓。使用に向けた情報共有会議実施(3回/年)。 校内美化、整美。校舎周りや校門近くの整美。</p> <p>(2) ア、初任者年3回、他教員年2回実施。初任者を中心とした経験年数の少ない教員を中心に、外部講師の招聘し、指導助言を受ける。 イ、新転任教員全員で実施。 ウ、教員のビジネスマナー研修、定期的な伝達講習を実施(5回以上)。校長だよりを活用した情報発信(20回/年) エ、段階別研修システムの完成。 ・初任者研修のプログラム見直し。 ・人権(3回)情報管理(1回)食物アレルギー(1回)各研修実施</p> <p>(3) ア、教育課程検討委員会をメインとして、本校版のキャリアプランニングマトリックスの完成。 イ、学科特に「生活科学」の授業内容充実に向けた検討。 アビリンピックへの参加と上位入賞 ウ、PTを立ち上げ来年度より実施できるように検討する。</p>	<p>ア△教科ごとにシラバスの点検を進めた。新学習指導要領を踏まえて次年度まとめる予定 イ○新教材として織機を導入、現在準備中。道具類はまめに整備している。 ウ○使用に向けた情報共有会議を摂津支援と2回実施。ルール整備協議。校内では協議準備等のため毎月学科会議実施。 ◎食とみどりの授業において花壇周辺と畑周辺を整美実施。放置されていた花壇もハーブ園に改装。 ア○初任者研究授業を年3回計画、外部講師により指導を受ける ○研究授業週間を年2回実施 イ○対象者は企業研修と就労移行事業所での研修を実施 ウ○ビジネスマナー、伝達研修を計画通り計5回実施。予定回数実施した。就労支援力の向上に向けて継続して取り組む必要がある。校長だより(20回/年) エ○指導教諭により段階別研修システムの前段階として専門性向上をめざした広報誌発行(2回/月)障がい理解啓発につながった。 △初任者研修プログラムは引き続き見直し要。 ○各研修予定通り実施できた。 LGBTについての研修や「性に関する指導」研修実施のより理解が深まった。 ア○教育課程改善と合わせてキャリアプランマトリックス作成 イ○アビリンピックに2年生3名参加。上位入賞はならずも技能UPが見られた。 ウ△PTにより会議継続中。次年度体系的な計画提案予定</p>

## 府立とりかい高等支援学校

<p>3、地域・関係機関との連携強化</p>	<p>(1) 交流及び共同学習の充実</p> <p>(2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実</p> <p>(3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。</p>	<p>(1) ア、共生推進教室との交流も図り共同学習をめざす。またスポーツクラブを中心とした交流を実施することで本校生徒のスポーツ技量向上めざし、余暇活動の充実につなげる。 イ、摂津支援小学部へ本校の生活科学の生徒が、「保育」関連授業として、交流を行う。</p> <p>(2) ア、本校アドミッションポリシーの深く広い浸透を図るとともに、地域への積極的な情報発信 イ、地域交流。 ウ、淀川河川事務所とタイアップした地域支援。 エ、「食とみどり」学科の地域特選野菜(大阪もん野菜)の栽培で摂津市との交流。 オ、近隣施設(保護者)との連携強化</p> <p>(3) ア、職場開拓は、本校の恒常的な業務と捉え、教員全員が、「進路担当者」の自覚を持つ。 イ、持続的・継続的に就労率向上と職場定着率向上をめざす。</p>	<p>(1) ア、共生推進校との交流及び共同学習3回以上。共生推進校(北摂つばさ高校)とのクラブ交流2回以上。 ・共生推進教室生徒の職業観・勤労観の涵養に向けてスクーリングの在り方も含めて検討する。 ・共生推進教室設置校の教員対象の学校見学会実施 イ、摂津支援との交流、3回以上。</p> <p>(2) ア・地域での説明会を積極的に実施し(2回)、行事等の開催時にもアドミッションポリシーや本校の特色ある取り組み等の周知に努める。 ・自治会への学校だよりの発行(毎月)加えて行事案内チラシの配布 イ、地域住民の行事への招へい(喫茶・販売に招く) ウ、淀川河川事務所と「アドプト花壇」における地域支援。 昨年度より内容を工夫充実させたうえで年間3回以上。(学期に1回以上) ・摂津市主催「わいわいがやがや祭り」への参加。(教育課程に位置付けることにより充実した取り組みになるよう検討) エ「食とみどり」学科の「とりかいナス」の栽培で、摂津市との交流。「ナス」品評会での上位(H28の特別賞以上)に入賞。 オ、関係施設連絡会議の新設実施(年2回)</p> <p>(3) ア、職場開拓数として、50社以上の職場開拓。昨年までの開拓企業の実習実施状況等の確認 イ、H28年度卒業生全員のアフターケア実施 H27年度卒業生のアフターケアのあり方について検討。</p>	<p>ア◎2校の学校祭への展示出品等で交流を実施。継続実施することで両校の相互理解は深まった。参加生徒の増 共生生徒が本校のクラブに参加し試合出場、優勝した。共生生徒の学科の選択、参加方法について改善。次年度より実施 共生推進教室設置校の教員対象の学校見学会の代わりに本校教員が設置校訪問し学校紹介等情報共有に努めた。</p> <p>イ◎学科授業で摂津支援小学部にて実習交流また地域行事にて摂津支援とのクラブの合同発表実施。</p> <p>ア◎吹田地区、三島地区、守口市の説明会に参加。広報活動実施 ○学校だよりの定期配付(年11回) イ○地域行事と日程が重なり参加は少なかったが学校祭に招待。生徒の接客練習にも協力いただいた ウ案の事務所と連携した取り組みを継続実施中。事務所職員等が来校の上で実施(年3回) ◎「わいわいがやがや祭り」参加製品の販売実施。授業での製品づくりへの意欲につながり参加生徒が増えた。</p> <p>エ○品評会に出品。昨年より上位の賞は受賞できなかったが本校栽培ナスの品質は昨年に比べて向上した。</p> <p>オ○10月6日に第1回関係施設連絡会を開催。1回の実施で終わったが内容が深まり生徒への指導内容に連携が取れるようになった。</p> <p>ア○新規約60社の企業に開拓を実施した。昨年開拓企業とは良好な関係継続中 イ◎前期に2回の企業訪問に行きアフターケアを実施。相談時にも積極的に対応できた。</p>
------------------------	---	---	--	--